

本学短期大学部学生マナーの実態と指導の実際について

手嶋 康 則¹⁾ 森 脇 千 夏²⁾ 藤 島 淑 恵³⁾ 松 隈 美 紀⁴⁾

Manners and Training for Junior College Students

Yasunori Teshima¹⁾ Chinatsu Moriwaki²⁾ Toshie Fujishima³⁾ Miki Matsuguma⁴⁾

(2016年11月25日受理)

はじめに

文部科学省は、平成18年5月に公表した第3期中央教育審議会大学分科会大学教育部会(第4回)において、「キャリア教育や就職指導の質の確保・向上と支援のための方策」の一つとして、学生の人間性や人間関係についての教育が必要になっていることを挙げている。また、同会の議事録の中で、就職後に企業がマナー等も含めた教養教育に投資しなければならない状況にあり、大学教育において学生がこれらを身につけるためのカリキュラムを検討する必要があるとした。

本学短期大学部(以下、本学部)の学生においても、学園生活における生活習慣やインターンシップ(企業実習)、校外実習(病院実習、保育園実習など)での「挨拶等の基本的マナーや『時と場所、場合に応じた方法・態度・服装等の使い分け』などの社会的行動力(以下、学園マナー)」の欠如が課題となっており、何らかの対策を講じることが急務となった。

本研究では、このような現状から本学部にマナー委員会が発足した経緯とその取り組み、アンケート調査に基づく学生の学園マナーの実態について分析し、今後の本学部のマナー教育の方向性について検討することを目的とした。

1. マナー委員会発足と取り組みについて

1.1 マナー委員会の発足と目的

本学部のマナー委員会は、平成22年7月に発足した。構成員は本学部長が委員長を務め、本学部長が任命した教員を副委員長とし、本学部3学科の各マナー委員6名からなるインフォーマルな組織である。平成25年度からは各学科より2名ずつの委員を選出し、うち1名が学生委員を兼務することで両委員会での取り組みについて情報共有を行っている。本委員会の目的は、現代社会に適

合するマナー指導のスタンダードを設け、全学的に統一したマナー指導を実施することで「しつけの中村」の伝統を継承し、その復権を目指すことである。

1.2 マナー委員会発足時の学園マナー改善のためのアセスメント

マナー委員会は発足時に今後のマナー指導の在り方について検討するために、様々な角度から学園マナー改善のためのアセスメントを行った。

① 本学部3学科の教育の特徴と就職状況

表-1に本学部3学科の教育の特徴と就職状況を示した。表-1は、平成22年度の大学案内およびNガイド等の資料を用いて、教育課程、校外実習、就職状況のマナーに関する共通点ならびに改善点についてまとめた。教育に関しては、教育課程における初年次教育やキャリア形成のための講座開設に共通部分がみられた。また、初年次教育では学科別の教育方法、高等学校との違い、レポートの書き方、ノートテイキング、図書館の利用法、資格取得、就職活動の指導など大学生活を円滑にするための支援がなされていた。各学科ともに初年次教育の段階から「身だしなみ」と「マナー」について取り上げており、授業開始時および終了時には挨拶を実施していた。キャリア開発学科では冊子『学園マナー』を作成し、毎週1回スーツで登校するビジネスディを設け指導していた。さらに、インターンシップの事前研修では履歴書の書き方、服装、電話対応、名刺交換など、ビジネスマナーが指導されていた。幼児保育学科、食物栄養学科では校外実習が行われており、施設への連絡の仕方、言葉遣い、立ち居振る舞い、服装、お礼状の書き方など、両学科ともに卒業後の即戦力を意識したマナー指導が行われていた。

就職状況は、各学科ともに90%以上の就職率であった。

別刷請求先：手嶋康則，中村学園大学短期大学部キャリア開発学科，〒814-0198，福岡市城南区別府5-7-1

E-mail：yasunori@nakamura-u.ac.jp

1) 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科准教授

2) 中村学園大学短期大学部食物栄養学科准教授

3) 中村学園大学短期大学部キャリア開発学科講師

4) 中村学園大学短期大学部食物栄養学科教授

平成22年6月に公表された経済産業省「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」によると、企業が新卒学生に求めているものは「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」「明るさ・素直さ」といった対人関係の基礎となる能力に不足を感じているのに対し、学生は技術・スキルなどの能力が自らに不足していると考えていることが報告されている。本学部の学生においても、インターンシップや校外実習に参加する学生は、資格や技術・スキル系の能力が充分ではないと不安視する傾向が強いのに対し、社会常識やマナーについては既に習得済みであると認識している学生が多いが、実習先から学生のマナー等について指摘されることもあった。このように実習先あるいは採用側と学生との社会人観のイメージには大きなズレがみられることから、各学科とも就職支援や校外実習指導において社会人としての基礎力養成のためにマナー指導に力を入れていることが窺えた。

以上のことから、本学部3学科の教育課程や就職支援には共通した課題が多いことが明らかとなった。

② 平成22年度の学生生活実態調査からみた学生のマナーの実態

本学学生部（現在の生活支援課）が実施した「平成22年度学生生活実態調査」において、学生自身は学生のマナーについて13.2%が「良い」、78.7%が「普通」、8.1%が「悪い」と回答した。本学部3学科に共通してマナーが「悪い」と回答された項目は、「授業中の私語」「エレベーター利用マナー」「授業中の携帯電話」「授業への遅刻、廊下・歩道でのマナー」「食育館の利用マナー」「駐輪場マナー」であった。

③ アセスメントに基づいたマナー指導の重点課題の検討

図-1に本学部3学科の教育の特徴と就職状況、平成22年度の学生生活実態調査から得られたコミュニティニーズとマナー指導における重点課題について示した。

マナー委員会では、学生のマナーについての教職員の意見を把握するために学科会議にて意見を求めたところ、学内における学生のマナーの課題について教職員は、日頃、学内で「挨拶をしない」「露出の多い服が目立つ」「食事の作法が悪い」などを主観的な課題として挙げた。ま

表-1 平成22年度資料による本学部3学科の教育の特徴と就職状況

	食物栄養学科	キャリア開発学科	幼児保育学科
キャリア教育の特徴	学生は、入学時より「栄養士免許取得」=給食施設就職というキャリアプランがある 即戦力となる「栄養士」養成という明確な目標をもって教育を実施 カリキュラム自体が栄養士養成のためであり各教科の習得こそがキャリア教育である ※各教科担当に任されている ※FD等でのすり合わせ必要	学生は、入学時より企業系に就職したいというキャリアプランがある 就業力支援のためのキャリア教育を実施 ◆キャリアサポート体制◆ 組織的キャリアサポート体制-キャリアサポート室の設置- 就職基礎能力養成プログラム、情報管理システム(n-c a t s)、個別指導、キャリアサポート講座	学生は、入学時より「保育士・幼稚園教諭免許取得」=保育園・幼稚園就職というキャリアプランがある 実践力ある「保育者」養成という明確な目標をもって教育を実施 カリキュラム自体が保育者養成のためであり各教科の習得こそがキャリア教育である
教育課程	栄養士免許取得のためのカリキュラム +入学前教育 +初年次教育 +栄養士基礎および総合講座(キャリア形成) +ゼミナール(各分野の専門性を高める) +料理学校での特別調理開講(技術の習得) ◆マナー指導◆ 社会人としてのマナーに加えて、専門職としてのマナー意識が必要(職業倫理・守秘義務、調理の際のマナー)	就業力支援のためのカリキュラム +入学前教育 +初年次導入教育 +キャリア形成演習I~III(段階的キャリア形成あり) +ゼミナール +資格取得 ◆マナー指導◆ キャリア開発学科「学園マナー」実施 ビジネスディ(週1回スーツで登校)	保育士・幼稚園教諭免許取得のためのカリキュラム +入学前教育 +初年次教育 +幼児保育基礎セミナー(キャリア形成) (施設見学・講演等、先輩保育者との交流、学生の意欲の維持) +ゼミナール(幼児保育演習) (各分野の専門性を高め、マナーやコミュニケーション能力を身につける) ◆マナー指導◆ 社会人としてのマナーに加えて、専門職としてのマナー意識が必要(職業倫理・守秘義務、保育の際のマナー)
校外実習	病院・事業所(保育園、老人福祉施設、企業給食):全学生を対象 事前研修・事後研修・報告会・学生評価等データ分析を実施し、次年度の教育・指導に活かす	企業(法人、NPO):1年次全学生を対象 夏季・春季別選択必修 事前研修・事後報告会・企業意見・学生評価等データ分析を実施し、就職活動、教育・指導に活かす	保育園、幼稚園、自主実習:全学生を対象 回数、期間ともに他学科よりも長い →就職につながる 事前研修・事後研修・報告会・学生評価等データ分析を実施し、教育・指導に活かす
就職状況	就職率96.6% 栄養士80.4%(保育園33%、委託給食23.2%、病院8.9%他)、事務17.9%(小売、サービス、医療・福祉)就職先は栄養士がほとんど、事務系は2割 入学時に明確な目標があり、就職時においても変化が少ない 事務でも栄養士資格を持つことが重要な職業につく(食品販売・営業)	就職率92.7% 事務50.3%(金融15%、製造7.2%、サービス9%)、販売15.7%、総合職8.5%、サービス7.2%、営業5.2% 就職先は企業系等、多岐にわたる 求められる資格も多彩	就職率98.5% 保育士62.8%、幼稚園教員33.7%、96.5%が保育士・幼稚園教諭として施設に就職 入学時に明確な目標があり、就職時においても変化が少ない
就職における特徴	校外実習は、2年生の夏休みに病院や福祉施設の求人は2年生の9月以降 就職試験は、専門試験と面接(コミュニケーション能力)言葉づかいや身だしなみ、実技試験(調理現場にはいる) ※校外実習が就職につながる	1年の7~8月、2~3月にインターンシップに参加 就職活動は、1年の春休み頃から2年の4月から6月が一般企業求人のピーク 学生は、複数の企業を受験する(企業説明会・試験・面接) ※早期のキャリア支援が就職率を左右する	校外実習1年の2月、2年10月 就職試験は、面接、実技(ピアノ、読み聞かせなど)、実際の保育状況 ※校外実習・自主実習が就職につながっている

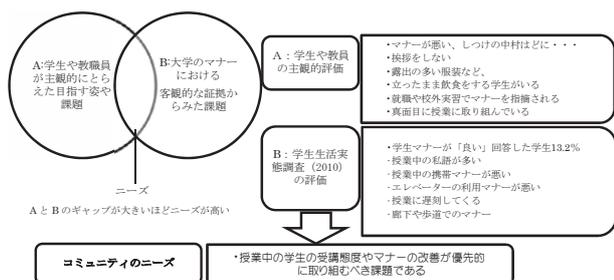


図-1 コミュニティニーズとマナー指導における重点課題

注) A：教員は服装や立ち食い、廊下等での挨拶についてマナーがない、学生はどこの学生よりも真面目に授業に取り組んでいると評価しているのに対し、B：アンケート調査による客観的な証拠として、授業中の他の学生の私語・携帯・遅刻や授業中の歩行者の廊下や歩道でのマナー、エレベーターの利用マナーについてマナーが「悪い」と評価された。このようなギャップから優先的に取り組む課題として「授業中のマナー改善」が抽出された。

た教員・学生ともに、本学部の学生は就職や校外実習でのマナーについて不安があるものの、授業については真面目に取り組んでいると評価していた。一方、学生生活実態調査による客観的な証拠からみた学生自身のマナー評価は、前述のとおりであった。これらの結果に基づいてコミュニティを構成する教職員と学生の認識の重なりとズレについてアセスメントを行った。図-1のAとBより「主観的には授業態度は良いと思っているが、客観的なデータによると授業態度が悪い」ということが浮き彫りとなった。このことから、コミュニティのニーズとして、授業中の受講態度等のマナー改善が優先的・重点的課題として挙げられた。

1.3 アセスメント結果に基づいたマナー指導の取り組み

マナー委員会は、表-2に示す通りマナー指導に関するアセスメント結果に基づき、マナー委員会の役割と取り組みについての方向性を検討した。さらに本学部3学科共通の検討課題として「マナー教育の重要性の再確認」「マナー教育の在り方、進め方の検討」「マナー教育の基準策定」「教育の徹底を図るための方策検討」の4事項を取り上げた。

表-3に平成22年度から平成27年度までのマナー委員会の取り組みについて示した。平成22年度は、具体的なマナー指導を実施するために、それに向けたツールとして学園マナーブック「Nakamura Style」冊子の作成、初年次教育用パワーポイントの企画・作成、教員に向けた授業中の注意事項の整理と周知のための依頼文の作成、学内掲示物の企画などを行った。平成23年度からは、一貫してこれらのツールを用いて学園マナーのスタンダードの周知徹底を図るために学生指導を実施した。また、毎年、前学期の最後に、マナー指導の効果、定着度、問題点を確認するため、本学部3学科の学生全員に「学園マナーに関するアンケート」を実施した。このようにマナー指導に関するPDCAサイクル体制を構築し、常に活

表-2 アセスメント結果に基づいたマナー委員会の役割と取り組みの方向性

業務分掌	実施項目	役割
マナー委員会での取り組み	マナー指導計画立案調整 学園マナー基準作成 学園マナーの評価とフィードバック 学生マナー委員会 設置 各学科各クラス1名選出	マナー指道に関する調整 学生・教職員への周知徹底 学生生活実態調査・他大学調査結果の分析と検討 マナー情報の伝達 教職員との意見交換 マナーに関する掲示物等の作成
全学科対象の取り組み	マナー指導 入学式オリエンテーション マナー教育講演会(案) キャリア教育支援講習会	入学オリエンテーション講演会(1年)
各学科での取り組み	プレカレッジ・マナー指導 初年次教育 校外実習・インターンシップ 就職活動支援	学園マナーについて概要伝達 学園マナーに加え各専門職におけるマナー教育 就職課と連携した取り組み (一般企業・専門職施設)
各授業担当者	マナー指導の実施主体	マナー指導の実施 授業中のマナーの徹底 ルーチン化した取り組み

表-3 平成22年度から平成27年度のマナー委員会の取り組み

年度	活動内容
平成22年度	中村学園短期大学部マナー委員会発足 マナー教育用冊子作成に着手 マナー教育用パワーポイントの企画・作成 教員に向けた授業中の注意事項の整理
平成23年度	「Nakamura Style」学園マナーブック(マナー委員会)完成 短期大学部3学科同時にマナー指導開始 マナーポスターの掲示(学生自治会の協力) 第1回 学生のマナー調査実施(本学部3学科共通)
平成24年度	第2回 学生のマナー調査実施および報告 全学展開に向けて、「Nakamura Style」学園マナーブック改訂 マナー指導用PPTの改訂
平成25年度	全学展開スタート 大学・短期大学部共通「Nakamura Style」学園マナーブック(学生委員会)発行 入学・オリエンテーションでの周知徹底 第3回 学生のマナー調査実施および報告
平成26年度	第4回 学生のマナー調査実施 過去3カ年(H23~H25)の調査結果検討および報告
平成27年度	第5回 学生のマナー調査実施 第1回 学生のSNS実態調査実施および報告

動の評価判定をすることとした。これらの結果を考慮して、次年度のマナー指導の改善項目として取り組むほか、朝礼や学内研修会等で報告を行った。

① 学園マナーブック作成の目的と項目

学園マナーブック「Nakamura Style」(図-2・以下、学園マナーブック)は、マナー指導を行うにあたり本学部3学科間の「スタンダード」を設定することを目的として作成された。一口に、マナー指導と言っても指導する立場や考え方によって、その範囲や深さは異なることから、本学のマナー指導における一定の基準を設け、教職員による



図-2 学園マナーブックの表紙

指導内容の差異を解消することは、学生が良いマナーを習得し、実践するうえで必要である。そこで、学生生活満足度調査等で指摘された項目やこれまでのマナー指導の取り組みから、3学科に共通し指導が必要である部分を学園マナーブックの項目として設定した。

表-4に学園マナーブック「Nakamura Style」(平成27年度版)の項目について示した。現在の学園マナーブックは、平成25年度より全学展開をするにあたり、SNS利用に関する項目を追加し改訂された。

② マナー指導ツールの使用

マナー指導のツールには、学園マナーブック、オリエンテーションならびに初年次教育用パワーポイント、クールビズのリーフレットがある。

学園マナーブックは、入学式に他の資料と一緒に配付を行い、初年次教育や必修授業、校外実習やインターシップの事前研修で使用する。パワーポイント「学園マナー Power point」は、学園マナーブックに記載の内容をより理解・実践するために、学生生活アンケートの結果を基にマナーの必要性と、どう実践すべきかを説明する内容である。これらは、CD化して各学科に配付しており、初年次教育や在学生オリエンテーションでの使用を推奨している。

クールビズのリーフレット「『Manner Book Nakamura Style』～短期大学部学園マナー～」は、5月から始まる全学的なクールビズスタイル期間のマナー指導に用いている。内容は、①服装(私服マナーとスーツマナー)、②メイクとヘアスタイル、③靴、アクセサリと小物の身だしなみについて、その詳細を説明したものである。学園マナーブックやマナー指導ツール等に記載している内容は、どれも当たり前のものであるが、その時々の学生の状況等に合わせて内容を変更していく必要がある。また配付するだけでなく、普段の授業等で地道に声をかけ指導を行うことが最も重要である。

表-5に本学部3学科のマナー指導の実施状況を示した。この3つのツールを利用し、各学科の方針に沿い必

表-4 学園マナーブック「Nakamura Style」(平成27年度版)の項目

学園マナー編	①挨拶 ②講義・教室 ③学内における立ち居振る舞い ④メール・提出物
私服マナー編	①『身だしなみ』と『おしゃれ』 ②私服 ③化粧・アクセサリ
スーツマナー編	①スーツ ②スタンダードスタイル
社会性編	①知っておきたい法律知識 ②SNSを利用する際に注意すべきこと ③地域社会との付き合い

修授業等でマナー指導が行われている。

2. 学生の学園マナーの実態

マナー委員会では、本学部3学科における初年次教育およびキャリア教育を通じたマナー指導の評価を行うために、毎年、「学園マナーについてのアンケート」を実施し、分析結果から次年度の重点課題を決定し活動を行ってきた。本研究では、平成23年から平成27年の調査結果を用い5年間のマナー指導の成果について示す。

【方法】

調査は本学部3学科1・2年生を対象として、平成23年から平成27年の毎年7月末に実施した。アンケート調査は集合法を用い、各学科のマナー委員が実施した。アンケート調査は無記名とし、本学の学生マナーについての学生の意見ならびに実践度等を把握することを目的とし、マナーブックの項目に基づいて作成した。アンケート調査内容を付録に示す。アンケート調査項目の学生の学園マナーの実践度は、平成22年度学生満足度調査を参考に作成した。

各項目の解析には、PASW Statistics18を用いた。マナー改善度は3段階、学園マナー必要度、満足度、実践度は5段階評価とし各年度の対象者の平均値を算出した。各年度の差の検定には、分散分析(ANOVA)を用い有意水準5%未満を有意差ありとした。

【結果】

表-6に解析対象者数を示す。平成23年から平成27年にかけて毎年約1,000名、回収率97.8%、延べ5,184名の推移について解析した。

図-3に「学園マナー改善度と学生の学園マナーについての認識の変化」を示した。「本学学生の学園マナーに

表-5 本学部3学科でのマナー指導の実施状況

	食物栄養学科		キャリア開発学科				幼児保育学科	
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
1年次	①プレカレッジ ②新入生オリエンテーション ③大学基礎演習		①プレカレッジ ②新入生オリエンテーション ③大学基礎演習 ④キャリア形成演習Ⅰ ⑤インターシップ事前研修 ⑥インターシップ期間				①幼児保育基礎セミナー(通年) ②保育所実習研究A	
2年次	①在学生オリエンテーション ②校外実習オリエンテーション		①在学生オリエンテーション ②キャリア形成演習Ⅱ、Ⅲ				①在学生オリエンテーション ②保育所実習A ③幼稚園教育実習研究(通年) ④幼稚園教育実習(通年) ⑤保育所実習研究B ⑥保育所実習B ⑦施設実習研究 ⑧施設実習	

表-6 学生マナーアンケートの解析対象者数(平成23年～平成27年)

	※()男性数									
	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
食物栄養学科	162(5)	149(1)	165(8)	157(3)	161(2)	152(7)	153(5)	156(3)	158(2)	124(4)
キャリア開発学科	167(1)	167(0)	158(1)	164(1)	165(1)	149(2)	164(2)	165(1)	164(2)	164(1)
幼児保育学科	207(3)	204(4)	196(3)	210(3)	207(3)	176(3)	215(4)	190(3)	215(3)	200(5)
学年合計	536(9)	520(5)	519(12)	531(7)	533(6)	477(12)	532(11)	511(7)	537(7)	488(10)
全合計	1,056(14)									
	1,050(19)									
	1,010(18)									
	1,043(18)									
	1,025(15)									

ついてどう思いますか」の設問に対し、「良い」「普通」「悪い」の3段階で回答してもらった。平成23年には「良い」と回答した学生が36%であったのに対し平成27年には44%と高くなり、「普通」と回答した学生が62%から53%に減少した。これらの学生の学園マナーに関する認識の変化を検討するために、マナーが「良い」3点、「普通」2点、「悪い」1点とし、各年度の平均値を改善度とした。平成23年の2.34をベースラインとすると、平成24年、平成25年では有意に低下したが、平成27年には2.42と有意に高値を示し、学生の学園マナーに関する認識が好転していることが示唆された。

図-4に「学園マナーの必要度と学園マナーが必要である割合の変化」について示した。

「中村学園の学生としてNakamura Style（学園マナーブック）は必要であると思いますか」の設問に対し、「非常に必要である」「必要である」「どちらでもない」「必要でない」「まったく必要でない」の5段階で回答してもらった。平成23年には「非常に必要である」14%、「必要である」62%であったが、年々「非常に必要である」が増加傾向にあり、平成27年には20%となった。「非常に必要である」「必要である」と回答する学生は、平成23年には76%、平成27年には78%であった。また学生の学園マナーの必要性について検討するために、「非常に必要である」5点、「必要である」4点、「どちらでもない」3点、「必要でない」2点、「まったく必要でない」1点とし各年度の平均値を必要度とした。平成23年には3.87であったが平成27年には有意でないものの3.95と高くなる傾向にあった。学園マナーの必要性は、マナー指導実施初年度から約8割の学生が必要であると認識しており、年々微増傾向であった。

図-5に「学園マナー指導に対する満足度とその割合

の変化」について示した。「Nakamura Styleを用いたマナー指導についてどう思いますか」の設問に対し、「非常に満足している」、「満足している」、「どちらでもない」、「あまり満足していない」、「満足していない」の5段階で回答してもらった。平成23年には「非常に満足している」が9.6%、「満足している」52.6%であった。平成27年には、「非常に満足している」12.6%、「満足している」54.4%であり上昇傾向にあった。また学園マナー指導に対する満足度を評価するために「非常に満足している」5点、「満足している」4点、「どちらでもない」3点、「あまり満足していない」2点、「満足していない」1点とし各年度の平均値を満足度とした。平成23年には満足度3.68であり、平成27年には有意ではないが3.76と上昇傾向がみられた。このことからマナー委員会および各学科における様々なマナー指導が学生に受け入れられていることが示唆された。

図-6に「学園マナーの改善を望む人数と各改善要望項目の変化」について示した。各学園マナー項目の中から、「学生マナーがもっと良くなればいいと思う」項目について回答してもらった。学園マナーの改善を望む人数は、年度ごとの回答者数にばらつきがあるものの平成27年にかけて減少した。平成23年に「改善してほしい」と回答された項目は、「授業・ゼミ中の私語」で45%、「エレベーターの利用マナー」15%、「食育館の利用マナー」7%、「廊下・歩道でのマナー」6%であった。5年間の推移では、「授業・ゼミ中の私語」は37%と改善傾向にはあるが、依然もっとも高値であり、「エレベーター利用マナー」は平成23年に比し上昇し、「食育館利用マナー」「廊下・歩道でのマナー」は微増であった。

図-7に「各学園マナーの実践度の変化」について示した。学園マナーブックに記載されている項目の個々の

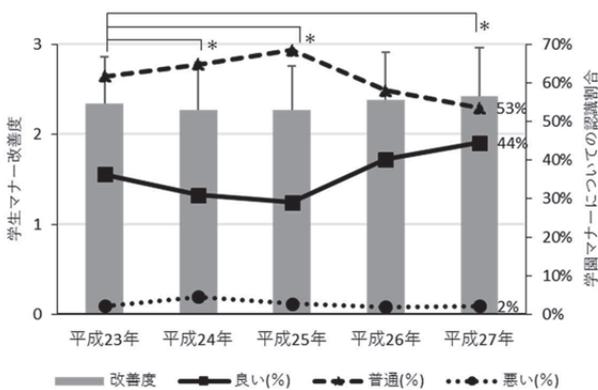


図-3 学園マナー改善度と学生の学園マナーについての認識の変化

注) 学生マナー改善度：マナーが「良い」3点、「普通」2点、「悪い」1点とし各年度の平均値を算出した
学生マナーについての認識割合：マナーが「良い」「普通」「悪い」と回答した各年度の割合を示した
* P<0.05 vs 平成23年

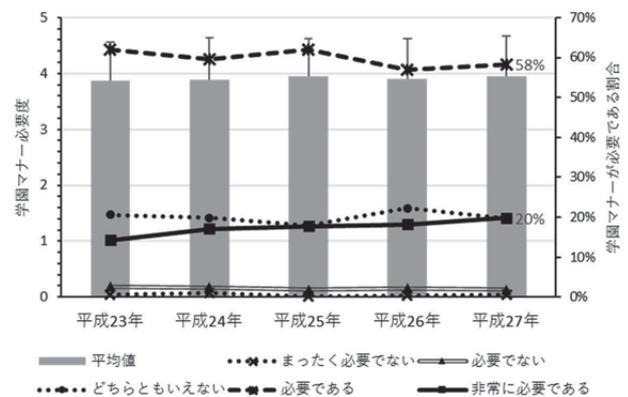


図-4 学園マナーの必要度と学園マナーが必要である割合の変化

注) 学生マナー必要度：「非常に必要である」5点、「必要である」4点、「どちらでもない」3点、「必要でない」2点、「まったく必要でない」1点とした場合の各年度の平均値
学園マナーが必要である割合：「非常に必要である」「必要である」「どちらでもない」「必要でない」「まったく必要でない」の回答割合

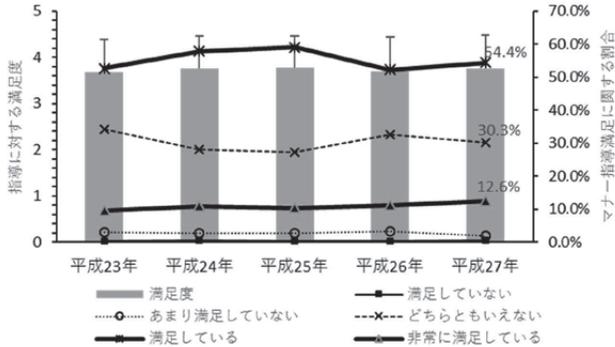


図-5 学園マナー指導に対する満足度とその割合の変化

注) 指導に対する満足度：「非常に満足している」5点「満足している」4点「どちらでもない」3点、「あまり満足していない」2点、「満足していない」1点とした場合の各年度の平均値
 学園マナー指導満足に関する割合：「非常に必要である」「必要である」「どちらでもない」「必要でない」「まったく必要でない」の回答割合

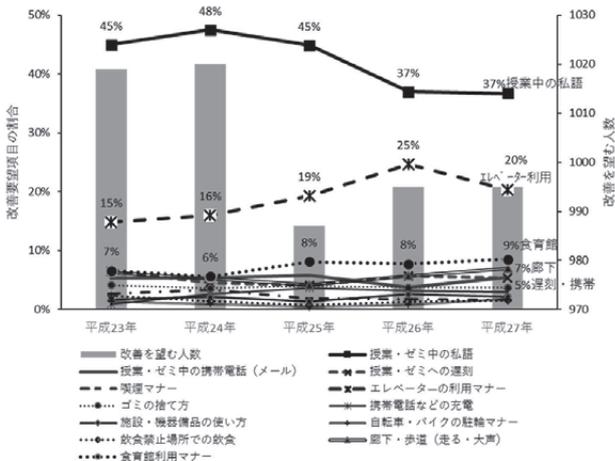


図-6 学園マナーの改善を望む人数と各改善要望項目の変化
 注) 学生マナー改善を望む人数：改善してほしい項目を回答した人数
 改善要望項目：もっと改善してほしい項目についての回答割合

実践度について、「できている」「まあまあできている」「どちらでもない」「あまりできていない」「できていない」の5段階で回答してもらった。各項目について、「できている」5点、「まあまあできている」4点、「どちらでもない」3点、「あまりできていない」2点、「できていない」1点とし各年度の平均点を実践度とした。学生の実践度が比較的高い項目として「学内におけるファッション」や「化粧・アクセサリ」「スーツ登校マナー」などの身だしなみの項目が挙げられ、ほとんどの学生ができていないと回答した。ところが、「学内での外来者や教職員への挨拶」がどの項目より実践度が低く、「講義や教室でのマナー」「講義開始終了時の挨拶」「廊下を広がって歩かない」「エレベーターの利用マナー」などの実践度に差がみられた。これらの5年間の変化では、「講義や教室でのマナー」「講義開始終了時の挨拶」については有意に実践度が高くなった。これらは平成24年に一端低下傾向を示し、大学・短期大学部共通「Nakamura Style」学園マナーブック（学生委員会）発行・配付による学園マ

ナーの全学展開に至った平成25年より有意に改善がみられた。特に有意な実践度の改善がみられた「講義や教室でのマナー」「講義開始・終了時の挨拶」について図-7aと図-7bに示した。学生自身の実践度は「どちらでもない」から、「非常にできている」「まあまあできている」の方向へ変化していることが示唆された。さらに継続的にアンケートを実施することによって、「できている」と回答する学生を増加させることを目標としていくとともに、各項目の実践度向上に向けて取り組んでいく必要がある。

3. 考察とまとめ： 今後の学園マナー指導の方向性

学園祖中村ハルが理想として掲げた「人間教育重視」の中に、建学の精神（清節・感恩・労作）の人間形成を基盤とした「形は心の現れである」がある。それを踏まえた女子教育の一環としての「しつけ」があり、「しつけの中村」と言わしめた時代があったが、時代の流れとともに本学学生においても学園生活におけるマナーや社会におけるマナーおよび社会的行動の欠如が課題となってきた。

学園マナーアンケート調査の結果より、マナー指導開始から5年間の取り組みによって、学園マナーは改善していることが示唆された。さらに約8割の学生が学園マナーを「必要である」と回答し、学園マナー指導に約7割の学生が「満足である」と回答した。また、学園マナーを改善するために、改善して欲しい項目について回答を得たところ、①「授業・ゼミ中の私語」が最も高く、②「エレベーターの利用」、③「食育館の利用のマナー」、④「廊下・歩道でのマナー」が挙げられた。学生自身のマナーにおける実践度からみても個人の行動変容レベルでの「学内のファッション」「化粧・アクセサリ」「スーツ登校マナー」の実践度は高いものの、他者の行動や環

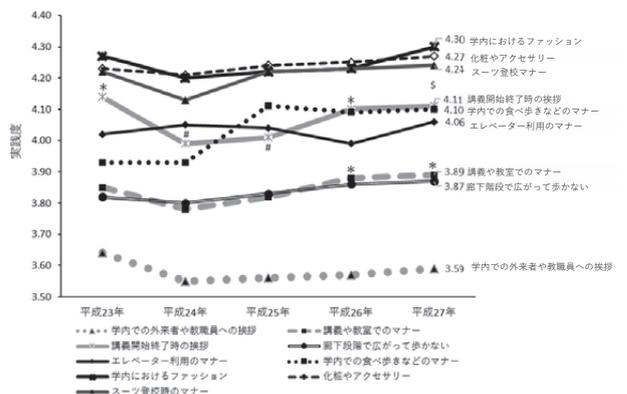


図-7 各学園マナーの実践度の変化

注) 実践度：「できている」5点、「まあまあできている」4点、「どちらでもない」3点、「あまりできていない」2点、「できていない」1点とした場合の各年度の平均値
 # <0.05 vs 平成23年, * <0.05 vs 平成24年, \$<0.05 vs 平成25年

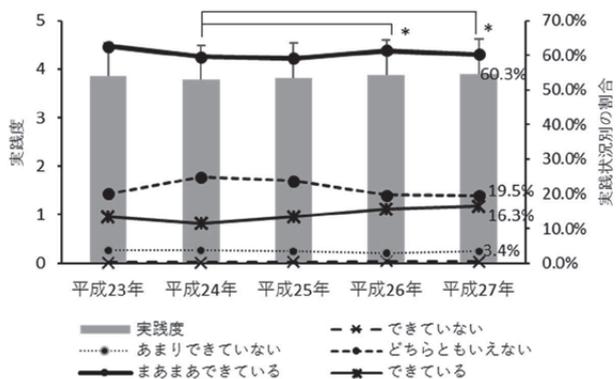


図-7 a 講義や教室でのマナー実践度の変化

注) 実践度: 「できている」5点, 「まあいであきている」4点, 「どちらでもない」3点, 「あまりできていない」2点, 「できていない」1点とした場合の各年度の平均値
* <0.05 vs 平成24年

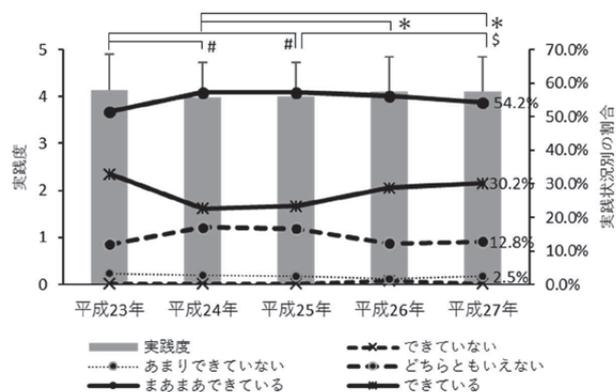


図-7 b 講義開始・終了時の挨拶の実践度の変化

注) 実践度: 「できている」5点, 「まあいであきている」4点, 「どちらでもない」3点, 「あまりできていない」2点, 「できていない」1点とした場合の各年度の平均値
<0.05vs 平成23年, * <0.05 vs 平成24年, \$ <0.05vs 平成25年

境が影響する項目については実践度が高くなりにくい傾向が見出された。

これらの調査結果からマナー委員会では、非常勤講師を含む教職員へ授業開始終了時の挨拶や授業中のマナー指導における指導方針についての資料を作成し、本学部学生への共通した指導の徹底を依頼した。これらの取り組みによって平成25年より講義開始終了時の挨拶、講義や教室でのマナーが有意に改善してきたと思われる。このことから、今後の学園マナー改善のためには教職員の統一的取り組みが重要であることが示唆された。また、有意ではないが「学内での食べ歩きマナー」については、実践度が高くなる傾向にあった。これは、学友自治会などの学生活動において昼休み中に「食べ歩き」や「食育館利用」などについての啓発活動が実施されていることによるものとも考えられる。

さらに優先的課題として取り上げてきた授業中のマナーである「講義や教室でのマナー」「講義開始・終了時の挨拶」については、学生の実践度が改善している結果となった。調査結果から学生の学園マナーの必要性や指

導への満足度も高いため、今後も同様に学園マナー指導を徹底していくことが重要であると思われた。このことからマナー指導の時期は、入学時のオリエンテーションや初年次教育で全学一斉に取り組むとともに、各授業担当者が授業中のマナーについて学生に周知することが重要である。その回数は、入学時や校外実習、就職指導等の機会に学園マナーブックやパワーポイントを用いての指導を徹底するとともに、毎回の授業において注意を呼びかけるなどの取り組みが必要である。

前述のように個人レベルでの実践度としては、「授業中のマナー」も改善傾向にあるが、依然、学生が改善を要望する項目については「授業・ゼミ中の私語」が37%と最も高かった。学生一人一人の意識が向上することにより改善される可能性もあるが、他者・友人の私語を指摘できずに、授業に集中できない状況は学習環境の整備として教員が取り組むべき課題である。このような視点からも学生、教職員が協働してマナー改善に取り組む必要がある。しかし、現在、大学・短期大学部ともに学園マナーブックは入学時に配付され必携とされているが、教職員間の具体的指導には大きな差異があるように思われる。マナー指導の実践において、学生、教員、職員の共通した見解が必要であることが示唆された。

最後に今後の学園マナー指導の方向性として、マナー委員会、各学科、授業担当者のそれぞれの取り組みを強化するとともに、学園マナーブックに基づいた統一した指導に取り組む必要がある。マナー委員会においては、今後もアンケート等により学生のマナーの状況について把握し、マナー指導に関するPDCAサイクルによる活動の評価判定を継続することが重要である。

謝 辞

マナー委員会の発案者であり、平成22年度から平成25年度にかけ、マナー委員会の発足と取り組みの基礎を築かれた前短期大学部長清水誠名誉教授、ならびに平成26年度から平成27年度に引き続きご指導いただいた、前短期大学部長小田隆弘名誉教授に厚く御礼申し上げます。

参考文献 (五十音順)

- 1) 葛 城浩:「ボーダーフリー大学が直面する教育上の困難—授業中の逸脱行動に着目して—」, 香川大学教育研究, 第10号, P89-103, 2013.
- 2) 兒島尚子:「“気づかせる”からはじめるマナー教育」, 大阪樟蔭女子大学研究紀要第2巻, P225-229, 2010.
- 3) 高階玲治:『豊かな心を育てる「社会性教育力」(シリーズ・学力・第4巻)』, ぎょうせい, 2005.
- 4) 経済産業省:「大学生の『社会人観』の把握と『社会人基礎力』の認知度向上実証に関する調査」, 平成21年度就職支援体

制事業, 2010.

5) 中村博幸:「学生のマナーを教育の目標として考える～学生が自律・成長する為の学習サポート～」, 特集「学生とマナー」, 「大学と学生」P19-26, 2010.

6) 中村量一:『努力の上に花が咲く一学園祖中村ハル自伝』, 学校法人中村学園, 1972.

7) 樋口克次:『マナー改善運動の提案一特殊講義「マナー改善論」を総括して』, 大阪経大論集・第55巻第3号, 157-171, 2004.

8) 藤原由美:『ビジネスマナー教育における ARCS 動機づけモデル導入の試みーアクティブ・ラーニングの視点からー』, JI-YUGAOKA SANNO College Bulletin no.44, P111-126, 2004.

10) 文部科学省:大学教育部会での検討課題に関する主な意見等, 第3期中央教育審議会大学分科会大学教育部会(第4回), 2006. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/06060910/001.pdf (2016年9月30日アクセス)

資料 「学園マナーについて」のアンケート調査内容

平成 26 年度 中村学園大学短期大学部 「学園マナーについて」のアンケート	
この調査は短期大学の学生のマナーについての実態を把握して、今後の学園マナー充実のための基礎資料とするために実施します。この調査は無記名で行い、得られたデータは調査の目的以外には利用いたしません。質問項目ごとに選択肢番号を口内に記入してください。 平成 26 年 7 月 短期大学部マナー委員会	
1. 基本事項について、該当する番号を選択してください。	
(1) 所属学科 1. 食物栄養学科 2. キャリア開発学科 3. 幼児保育学科	<input type="text"/>
(2) 学年 1. 1年 2. 2年	<input type="text"/>
(3) 性別 1. 男性 2. 女性	<input type="text"/>
2. 本学の学生の学園マナーについてお尋ねします。	
(1) 学生の学園マナーについてどう思いますか。 1. 良い 2. 普通 3. 悪い	<input type="text"/>
(2) (1)で「1」「2」と回答した方にお尋ねします。学生マナーがもっと良くなれば良いと思うものを2つまで選んでください。また、(1)で「3」と回答した方にお尋ねします。学生のマナーが悪いと思われるものを次から2つまで選んでください。	<input type="text"/>
1. 授業・ゼミ中の私語 2. 授業・ゼミ中の携帯電話(メール) 3. 授業・ゼミへの遅刻 4. 喫煙マナー 5. エレベーター利用マナー 6. ごみの捨て方 7. 携帯電話などの充電 8. 施設・器具備品の使い方 9. 自転車・バイクの駐輪マナー(大学周辺含む) 10. 飲食禁止場所での飲食 11. 廊下・歩道(走る・大声) 12. 水道・電気の無駄遣い 13. 食育館利用マナー 14. 教室の使用方法 15. その他	
3. Nakamura Style (「学園マナー」)についてお尋ねします。	
(1) 中村学園の学生として Nakamura Style (学園マナー) は必要であると思いますか。	<input type="text"/>
1. 非常に必要である 2. 必要である 3. どちらともいえない 4. 必要でない 5. まったく必要でない	
(2) Nakamura Style を用いたマナー指導についてどう思いますか。	<input type="text"/>
1. 非常に満足している 2. 満足している 3. どちらともいえない 4. あまり満足していない 5. 満足していない	
(3)(2)で「4」「5」と回答した方にお尋ねします。	<input type="text"/>
1. 大学生には厳しすぎる 2. 内容が細かい 3. 先生によって対応が異なる 4. もっと厳しくても良い	
(4) Nakamura Style (Manner Book) に書かれている次の項目について、自分自身の実践度を1～5の尺度で評価し、該当する番号に○を付けてください。	
(1) 非常にできている 2. まあまあできている 3. どちらともいえない 4. あまりできていない 5. できていない	
a 学内での外来者や教職員への挨拶 (1, 2, 3, 4, 5)	
b 講義・教室でのマナー (1, 2, 3, 4, 5)	
c 講義開始終了時の挨拶 (1, 2, 3, 4, 5)	
d 廊下・階段で広がって歩かない (1, 2, 3, 4, 5)	
e エレベーター利用のマナー (1, 2, 3, 4, 5)	
f 学内での食べ歩きなどのマナー (1, 2, 3, 4, 5)	
g 学内におけるファッション(露出度の高い服など着ない) (1, 2, 3, 4, 5)	
h 化粧やアクセサリー (1, 2, 3, 4, 5)	
i スーツ登校時のマナー (1, 2, 3, 4, 5)	
★2年生にのみお伺いします。	
学園マナーは短大・大学の共通の取り組みとして全学で展開されています。	<input type="text"/>
(1) 昨年度より今年の大学全体のマナーは改善されてきていると思いますか。	<input type="text"/>
1. 改善した 2. わからない 3. 変わらない	
(2) 昨年度より改善したと思う項目があれば3.(4)の a - i から選んでください。(いくつでも可)	<input type="text"/>
(3) あなた自身の変化について伺います。昨年度と比べて、学外の実習、インターンシップ、就職活動等を通じて、マナーに関する自己評価が厳しくなったと思いますか。	<input type="text"/>
1. そう思う 2. 少し思う 3. 変わらない 4. 少し甘くなった 5. 甘くなった	
4. 「学園マナーについてあなたのコメント」をお書きください(自由記述)。	<input type="text"/>